Lindsaya orbiculata Mettenius エダウチホングウシダ

暖地には比較的廣範圍に分布してゐるが，靜岡縣内では初めて見出されたのではなからうか？。小早川喜代作氏が小笠郡小笠山で採集した。

Polystichum pseudo-Makinoi Tagawa サイコクヰノデ

和名の示す通り近畿以西に多いが，天城山彙中にもカタヰノデ *Polystichum Makinoi* Tagawa と混じて散見する。子嚢群が小羽片の邊緣近く並ぶことと，鱗片がやゝ軟いこと等でカタヰノデと區別される。

Lycopodium Sieboldii Miquel ヒモラン，イハヒモ

九州，琉球の諸地に點々と分布し，長野縣で稀に見出されるヒカゲノカヅラ科の懸垂性羊齒。韮山中學校生物班一行は天城山麓茅野部落附近で採集した。筆者も採集者の一人平野君の案内で現場に赴いてみたが，本谷川に臨んだリウキウマメガキの大木に 10 cm 許のもの 2 株を見出したのみ。

其他，ヒロハアツイタ *Elaphoglossum tosaense* Makino（10數年前，故緒方正資氏採）が伊豆淨蓮瀧下流に極く少數現存し，マツバラン *Psilotum nudum* Beauvois var. *gracile* Spring（南伊豆の採品あり）が田方郡大仁町城山の峨々たる火成岩の岩罅中に群生してゐる。尙又，故 Urbain Faurie 師が伊豆湯ヶ島では初めて採集したもので，紀伊半島・四國，九州に分布するミドリカナワラビ *Rumohra nipponica* Ching も天城山彙中に點々と生育してゐる。

○斑入葉の一例（津山　尙）

碓氷峠の東上州横川町南方の丘でガマズミの葉が小型になつた一品，中井先生の所謂ハコネガマズミを採集した。その木は高さ60cm位の幼木で，奇妙な事に凡ての葉が挿入圖の樣に斑入になつてゐた。黑く描かれてゐる所は，實は全く透明であつて，その部には同化組織が全くなくなつてゐて表裏の表皮のみからなつてゐるために薄くなつてゐる。よく見ると透明部分は葉肉を有する正常部からせり出して來た同化組織の圓孤で取り圍まれてゐることが判る。葉脈の間にのみ現はれるかゝる斑入現象はアラカシの一品ヨコメガシ（横目樫又の名，永縞しま樫）にも見られるが，幼葉が葉脈と葉脈の間に於て交互に疊まれる所の摺襞に關係があるのであらう（たとへそれが病原菌の感染によるか其の他の生理的現象によるとに關らず）。尙本品はあまりに齊一にこの斑を表はしてゐるので，病原菌の一時的の寄生によるものとは考へず多分に固定したものと考へる。

